

学 報

(昭和四十一年九月より昭和四十二年八月まで)

- 十月二十五日 秋の文学散歩。二回生が竹内先生・野村助手と共に嵯峨野方面へ行つた。
- 十一月十九日 才六回国文学会総講演・日本の近代化と文学史
関西大学教授 谷 沢 永 一 氏
- シンポジウム
♀女子大生のあり方々 在學生
- 十一月三十日 才一回文学談話会。
テーマ「源氏物語におけるモラルの問題」で原田先生と卒業生七名によつておこなつた。
- 一月十八日 才二回文学談話会。
「山家集」安田先生。出席者十名にておこなつた。
- 一月二十六日 卒業論文発表会。四回生は卒業論文についてテーマの選択理由、内容感想等を発表。
- 二月二十三日 予饗会。
- 三月二十日 昭和四十一年度卒業式。半田能子ほか五十三名が卒業。二十二日、グラントホテルで謝恩会が催された。
- 四月二十七日 四十二年度新二回生七十九名の歓迎会をおこなつた。
- 五月十五日 春の文学散歩。例年どおり二回生が葵祭を見学。
- 六月三日 文学散歩。三回生が西畑助教と半田助手の引率のもとに吉野方面を散歩。
- 六月十二日・二十四日 教育実習。四回生五十四名が樟蔭高校及び中学にわかれて実習。
- 六月二十二日 才九回国文学会評議員会。会報発行、総会、国文卒業生のつどい等について協議。

宮滝・秋津野文学散歩

西畑先生、半田さんと共に、国文科三回生約二十名は、六月三日、吉野川沿いの万葉遺跡を尋ねました。近鉄線下市駅からバスで宮滝まで行きます。

吉野には歴代諸天皇が行幸され、殊に持統天皇はしばしば当地を訪れておられます。宮滝付近がその吉野離宮址なのです。

アスファルト道路が整備され、文化住宅もある周囲の様子に驚きを覚えながら、近くの宮滝小学校に出土品があると聞き、初夏の日ざしを全身に浴びて少し歩いてゆくと、赤人の歌碑が立っていました。

み吉野の象山の木末には幾許もさわぐ鳥の声かも

小学校の南側の山が三船山です。

滝の上の三船の山に居る雲の常にあらむとわが思はなくに 弓削皇子
朝霧にしのにぬれて呼子鳥三船の
山ゆ鳴き渡る見ゆ 作者不明

いづれも万葉集に見える歌ですが、吉野の激湍をへだてて雲霧の去来した古代がふとしのばれました。宮滝から更に夢のわだを渡り象の小川に沿って桜木神社に行きます。

昔見し象の小川を今みればいよよきやけくなりけるかも 大伴旅人

水は冷たく澄んで、懸瀑のしぶきは珠のようです。一時半、桜木神社を後にし、秋津野へ戻りました。この頃から急に空模様が変わりポツリポツリと雨が降り出したのです。秋津野の地名の解釈にも色々あり、書紀の蜻蛉にちなんでいるとか、広々した明るい野の意だとかいわれます。たしかにここでは吉野の溪谷は急に開けて、眼下にゆるい吉野川の流れを見ることができま

す。
やすみしし わが大王は み吉野の
鮑津乃小野の 野の上には 跡見据
ゑ置きて み山には 射部立て渡し
朝猟に 鹿猪ふみ起し 夕狩に
鳥踏み立て 馬竝めて 御猟ぞ立た

す 春の茂野に

山部赤人

雨はますます強くなりそうなので宮滝へ戻ることになりました。三船山の頂上は不気味な黒雲に包まれています。時間と雨にせきたてられ私たちは、心残りに思いながら帰途につきました。

み吉野の秋津の川の万世に絶ゆることなくまた還り見む 笠金村

(国三 野間節子記)

昭和四十二年度講義題目

国文学概論	安田 章生	国文学演習	大和物語	竹内美千代
国文学史概説	原田 芳起	源氏物語・須磨	源氏物語	竹内美千代
国文学研究	原田 芳起	源氏物語・藤裏葉	源氏物語	久保 重
和歌史論	安田 章生	堤中納言物語	今昔物語	原田 芳起
中世歌人論	安田 章生	山家集	今昔物語	原田 芳起
芭蕉	木村三四吾	百人一首	関吟集	安田 章生
近代短歌	安田 青風	国語学概論	国語学概論	原田 芳起
近代小説	山根 賢吉	国語学史概説	国語法概論	鈴木 一男
国文学講読	安田 青風	国語法概論	国語表現論	島田 勇雄
万葉集	安田 青風	話しことば	国語科教科教育法	竹内美千代
宇津保物語	原田 芳起	国語科教科教育法		山上ミチ子
				鈴木 一男

報 学

昭和四十一年度卒業論文題目

菊池寛研究
西行と慈鎮
山本有三論
芭蕉論——紀行文を中心に——
佐藤春夫研究
西鶴「置土産」研究
近松の淨瑠璃
川端康成の研究
「若菜集」研究
森鷗外論
竹取物語研究
化政期歌舞伎と鶴屋南北
樋口一葉とその日記
太宰治論
良寛研究
芥川竜之介論
小林一茶「おらが春」研究
「智恵子抄」論
芭蕉
太宰治論
仮名文字と書道史
与謝野晶子
曲亭馬琴の研究
中原中也「山羊の歌」論

秋山 温代
秋山 洋子
伊勢谷友子
稲村 寿野
乾 富喜子
岡所 厚子
神吉 淳子
木村 節子
岸田 光枝
北野 靖子
絹谷 和子
久保田節子
小池 由子
小山ちか子
坂口 圭子
清水三津子
新城 和子
下牧 芳美
神田加津代
新開美代子
田中 睦美
高岡 祥子
武内寿美子
谷 保代

鴨長明研究
有島武郎論——「カインの未裔」を中心として——
萩原朔太郎研究
蜻蛉日記研究
異版日本永代蔵考
伊勢物語論
蛇性の姪典拠再考
小林秀雄の『無常という事』
土佐日記の研究
観世元雅の研究
樋口一葉研究
竹取物語研究
女房言葉
紫式部論
万葉集における葦屋菟原処女伝歌の一考察
徒然草の研究
独歩「源叔父」論
狭衣物語研究
難波の文学
立原道造論
枕草子にみられる清少納言
詩人島崎藤村論
俊成論
大鏡研究

塚本 朋子
徳永 陸子
中川 由美
中島 浩子
中洲佐由美
中村 祥
南部 栄子
原田 幸子
春井 文子
半田 能子
樋口 知子
東野 富子
平見 輝代
福家久美子
女伝歌の一
松浦 郷子
松尾 宏子
松木 淑子
松本満知子
万野 礼子
水本 寛子
宮本 幸子
森川美根子
森田 芳子
山口万亀子

執筆 者 紹 介

「平家物語」小考
与謝野晶子論
樋口一葉研究
秋成研究——『雨月物語』に見る秋成の人と文学——
樋口一葉「にぎりえ」論

山田 伸枝
山本百合子
和田せつ子
渡辺 伸子
藤井紀代子

原 田 芳 起 本 学 教 授
竹 内 美 千 代 本 学 教 授
西 畑 実 本 学 助 教 授
八 亀 師 勝 本 学 講 師
杉 本 真 理 子 本 学 国 文 科 学 生
竹 島 智 子 本 学 国 文 科 学 生

受贈図書 〆昭和四十一年十月〆同四十二年九月〆

- 跡見学園国語科紀要 一五
 跡見学園国語科研究会
 香椎瀉 第一二号
 福岡女子大学国文学会
 学苑 四〇年九月、一〇月、十一月、
 十二月、四二年一月、二月、三月、四
 月、五月、六月、七月、八月
 昭和女子大学内光葉会
 學術研究 一五号
 早稲田大学教育学部
 学大国文 第一〇号
 大阪学芸大学国語国文学研究室
 紀要 第一卷第一号
 ノートルダム清心女子大学
 共立女子大紀要 第一二号
 共立女子大学文芸部国文学研究室
 金城文学 三六号、三七号
 金城学院大学国文学会
 近代文学研究 一三三号
 東洋大学近代文学研究会
 研究学報 一四号
 大阪帝塚山学院短期大学
 甲南国文 第一三三号
 甲南女子大学国文学会
 国学院雜誌 四一年八月、九月、一〇
 月、十一月、十二月、四二年一月、二
 月、三月、四月、五月、六月
- 国学院大学
 国語学研究 六、七
 東北大学文学部国語学研究刊行会
 国語国文学 一九、二〇
 名古屋大学国語国文学会
 国語国文学研究 二号
 熊本大学法学部国語国文学研究室
 国語国文学報 第二〇集
 愛知学芸大学国語国文学会
 国語国文学論文集 第五集
 熊本女子大学国語国文学会
 国語国文研究 第三四号、第三五号、
 第三六号、第三七号
 北海道大学国文学会
 国語と教育 二号
 大阪学芸大学国語国文学研究室
 国文 第二六号、第二七号
 お茶の水女子大学国語国文学会
 国文学 第八号
 愛知大学国文学研究会
 国文学 第四〇号、第四一号
 関西大学国文学会
 国文学漢文学論叢 第一二輯
 東京教育大学文学部
 国文学研究 第二号
 梅光女子学院短期大学国文学会
 国文学研究 第三四集、第三五集
- 早稲田大学国文学会
 国文学叢 第四一号、第四二号、第四
 三号
 広島大学国語国文学会
 国文学論考 第三号
 都留文科大学国語国文学会
 国文鶴見 第二号
 鶴見女子大学日本文学会
 語文 第二五輯、第二六輯
 日本大学国文学会
 語文 第二六輯、第二七輯
 大阪大学文学部国語国文学研究室
 語文研究 第二二号、第二三号
 九州大学国語国文学会
 駒沢国文 第五号
 駒沢大学国文学会
 国立国語研究所年報 一七
 国立国語研究所
 白百合女子大学研究紀要 第二号
 白百合女子大学
 静岡女子大短期大学国語国文論集 三
 集
 静岡女子大短期大学国文研究室
 実践文学 第二九号、第三〇号
 実践文学会
 女子大国文 第四二号、第四三号、第
 四四号、第四五号、第四六号

- 京都女子大学国文学会
 人文科学紀要 第一一号
 東京大学教養学部人文科学科国文学
 漢文学研究室
 人文学報 第五六号
 東京都立大学人文学部
 人文研究 第一八卷第一号
 大阪市立大学文学会
 人文論究 第二七号
 北海道教育大学函館人文学会
 成蹊大学文学部紀要 第二号
 成蹊大学文学部
 成城文芸 第四四号、第四五号、第四
 六号、第四七号
 成城大学文芸学部研究室
 専修国文 創刊号
 専修大学国語国文学会
 玉藻 第二号
 フェリス女学院大学国文学会
 同志社国文学 第二号
 同志社大学国文学会
 都大論究 第六号
 都立大学国語国文学会
 日本歌謡研究 第四号
 日本歌謡学会
 日本文学 第一八号
 立教大学文学部日本文学研究室
 日本文学誌要 第一六号、第一七号
 法政大学国文学会
 日本文芸研究 第一八卷第一号、第二
 号、第三号
 関西学院大学日本文学会
 梅花女子大学文学部紀要 二
 梅花女子大学文学部
 藤女子大学国文学雑誌 第一号、第二号
 藤女子大学国語国文学会
 文学会論集 三二
 甲南大学文学会
 文学論集 第八号
 佐賀大学文学部
 文学論藻 第三四号、第三五号、第三
 六号
 東洋大学国語国文学会
 文芸研究 第一六号、第一七号
 明治大学文芸研究会
 文芸と思想 第二九号、第三〇号
 福岡女子大学国文学会
 文林 第一号
 松蔭女子学院大学国文学研究室
 平安朝文学研究 第一三三号
 早稲田大学国文学会平安朝文学研究
 会
 法文論叢 第二一号
 熊本大学法文学会
 山辺道 第一三三号
 天理大学国文学研究室
 論文集 創刊号
 園田学園女子大学国文学会
 和洋国文研究 第四号、第五号
 和洋女子大学国文学会

樟蔭国文学 第五号

昭和四十二年十一月十五日印刷
昭和四十二年十一月二十日発行

編集者 大阪樟蔭女子大学
国文学会
(代表者 安田章生)

印刷所 大阪市東区元伊勢町五三六
共進社印刷株式会社

発行所 大阪樟蔭女子大学
国文学会